



～各地のリボンズハウスの「寄付活動」をご紹介します～

がんセンターリボンズの活動は多くの皆様とつながり支えあいながら続けています。各地のリボンズハウスにもサポートしていただいている中から、各々の特性を活かした寄付活動をご紹介します。

恵佑会札幌病院では、恵佑会第2病院の開院を記念して「珠玉のイタリアオペラ・アリアと歌曲の夕べ」を、2012年3月14日(水)札幌コンサートホール Kitaraにて開催。

イタリア人テノール歌手ジュゼッペ・コスタツォさんらに



よる本場イタリア・オペラを多くの来場者にご堪能いただきました。このコンサートは「がん患者さんの治療と生活をつなぐ」活動を支援するチャリティーコンサートを兼ねており、来場者の皆様からいただいた募金の中からがんセンターリボンズにも寄付金を頂戴しました。



独立行政法人国立病院機構 大阪医療センターでは、CD「笑顔があれば」、DVD「災害対応訓練」を販売しており、この売上の全額ががんセンターリボンズに寄付されています。

リボンズハウス「第3回支えあいの輪 ウタのタネ in 大阪医療センター～音楽のちから～」(2011年7月)を大阪医療センターが開催した際、「きぼう・元気・えがお」をテーマに、闘病中の方や医療従事者の方々から歌詞募集し、その歌詞をもとに、シンガーソングライター寺尾仁志さんが作曲。「笑顔があれば～if you smile～」という素敵なCDにしました。リズムカルで元気がでる曲です。



また、大阪医療センターが二次被ばく医療機関（放射線災害に関して専門的な機能・各種検査機器を有する機関）の役割を担うセンターだということもあり、緊急被ばく医療施設で実施した訓練の様子をDVDにしました。このDVDは、多くの医療機関にお役立ていただいています。

CD・DVDのご購入、お問い合わせは、下記にお願いいたします。

<大阪医療センター患者情報室> 電話 06-6942-7321 (受付は10～16時・土日祝祭日は休み)

新リボンズハウスのご紹介

【済生会松阪総合病院】 ～15番目のリボンズハウスができました～

社会福祉法人恩賜財団済生会松阪総合病院（三重県）緩和ケア病棟内に、15番目のリボンズハウスが出来ました。4月1日(日)、緩和ケア病棟開設を記念して行われた「開設記念式典・内覧会」には、山中光茂松阪市長や松阪地区医師会 師岡芳人会長にもご列席いただき盛大なセレモニーとなりました。また、当NPO 副理事長 岡山慶子も出席し祝辞を述べました。



各地のリボズハウスの活動紹介

【藤田保健衛生大学病院】 ～学生ボランティアにパワーをもらっています～

藤田保健衛生大学の学生ボランティアや実習に来た学生さんが、「入院されている患者さんやご家族の為に自分達にできることはないか」とイベントを考え、歌や踊り、楽器演奏などを行ってくれます。若い学生さんからパワーをもらい、患者さんやご家族が少しでも苦痛を忘れて楽しめる時間になれば、と思います。



季節の健康レシピ

このコーナーでは、季節に合った簡単で体に優しいレシピをご紹介します。料理研究家で、当 NPO の委員でもある村岡奈弥さんの美味しい簡単レシピをご紹介します。今回の一品は、帆立貝のポワレです。材料のオータムポエムは、品種改良で生まれたアブラナ科の新野菜で、甘みがあり、茎の食感がアスパラガスに似ているためにアスパラ菜とも呼ばれています。山菜が楽しめる季節です。お好みで、菜花やセリなどいろいろな山菜で代用してみてください。

●●●帆立貝のポワレ アサリソース●●●

【材料】6人分

帆立貝 12個、あさり 500グラム、こごみ 6本
オータムポエム(アスパラ菜)12本・・・適当な長さに切る
せり 1束・・・枝を摘んでおく
白ワイン 250cc
小麦粉、オリーブオイル(エキストラバージンオイル)
塩、胡椒



【作り方】

1. 鍋にオリーブオイルを熱し、アサリを炒め、白ワインを注ぎ、蓋をして火を通す。
2. 鍋からアサリを取り出し保温し、汁を煮詰める。
3. 2に、こごみ、オータムポエムを加えて火を通し、仕上げにせりも加え、塩で味を調える。
4. 帆立貝は塩・コショウで下味をつけ、小麦粉をまぶしてバターで焼きムニエルにし、器に盛る。
5. 4の皿に、アサリと3の野菜をのせる。

<村岡奈弥さんプロフィール>

辻クッキングスクール勤務後、辻調グループフランス校「シャトー・ド・レクレール」に留学し、フランス料理を学ぶ。帰国後、料理教室「エミーズ」のチーフ・コーディネーターを務め、その間、フランスの三ツ星レストラン「ミッシェル・ブラス」で修行。料理教室を主宰するほか、「中医薬膳師」「国際中医師」の資格を取得し、現在、日本中医食養学会常任理事、国立北京中医薬大学日本校の講師を務める。ホームページは、<http://www.cuisine-naya.com/>



ブックレビュー

■図書館 館長おすすめの1冊

キャンサーリボンズでは、各地の図書館と連携して情報発信する活動を進めています。その活動の一環として、川崎市立麻生図書館 館長 池原 真さんに書籍の紹介を連載していただいています。

書名：『もしも、がんが再発したら—本人と家族に伝えたいこと 患者必携—』

著者：国立がん研究センターがん対策情報センター／編著（英治出版） 788円（税込）

この本は、患者と医師を結ぶ言葉を大切にした本です。がんの再発という事態に直面した人に、がんの専門家による治療の知識や支援の仕組み等の説明だけでなく、体験者の声を交えながら、自分の気持ちと上手に付き合うためのヒント、本人や家族の病気との向き合い方を紹介しています。

緩和ケアの説明では、“あなた（患者）からの言葉が、治療の第一歩です”と、書かれています。

『「痛みやつらいことは、仕方がないことだ」とあきらめることはありません。つらい気持ちを「人に伝える」ことが、あなたの苦痛を和らげるための第一歩になります。痛みや、気持ちのつらさや不安がある時には、何時でも緩和ケアについて、担当医や看護師、相談支援センターに相談してみましよう。』

こうした言葉に、多くの人は勇気づけられるのではないのでしょうか。



この本の内容は、国立がん研究センター がん情報サービスのホームページ

(http://ganjoho.jp/public/qa_links/hikkei/saihatsu.html)でもご覧いただけます。

■リボンズハウスで話題の本

国立病院機構 京都医療センター リボンズハウスで話題の本をご紹介します。

書名：「がん専任栄養士が患者さんの声を聞いてつくった 73の食事レシピ」

著者：川口 美喜子/青山 広美（医学書院） 定価 1,890円（税込）

がん患者専任としてかかわる栄養士が、実際に提供してきた食事レシピとそのコツがまとめられている本です。レシピは、患者さんの声を聞いて作ったもので、どういう要望から作られたメニューなのか、そのショートストーリーも掲載されています。

抗がん剤の治療をはじめから、「食の好みが変わった」「食欲がない」など食事に関する声をよく耳にします。その中でこういった本をご紹介しますと、喜んでいただけることが多いようです。





各地のリボンズハウスからのお知らせ

【NPO 法人あなただけの乳がんではなく】

「第8回 かがしま女性医療フォーラム」を、5月26日(土)サンエールかごしまにて開催(入場無料)。対象は、乳がん患者さんおよびご家族、医療者、乳がんに関心を持つ一般の方です。

第1部は、「今、知っておきたい乳がんの治療」、専門家による講義とグループワークです。第2部は、講演「乳がんになって考えたこと」。詳細は、「NPO 法人あなただけの乳がんではなく」のホームページ(<http://www.ann.or.jp>)をご覧ください。

なお、このイベントは、キャンサーリボンズの「第4回 がん支えあいの日」応援イベントです。

【田附興風会 北野病院】

ボランティアによる「スプリングコンサート」を、4月26日(木)北野病院5階プラナホールにて開催します。今回は、プラナホールが模様替えされて初めてのコンサート、今までとは違った雰囲気になりそうです。

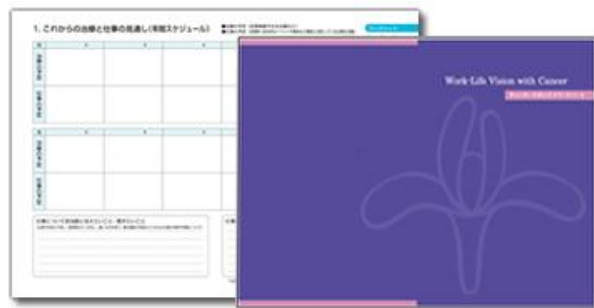
キャンサーリボンズからのお知らせ

～がんを治療しながら働く方々を応援する「がんと働く」ノートが好評です！～

キャンサーリボンズでは、患者さんの体験や、がん医療や就労に携わる他職種の意見を統合して、自分の心身の状態を整理して自己管理に役立てるとともに、主治医や、職場の産業医・上司などとの相談にも活用できるツールを作成しました。

個人でご購入希望の場合は、1冊当たり300円分の切手+返信用の封筒(ご送付先の郵便番号・宛先を明記、21cm×15cmの冊子が入る大きさ、切手は不要)を同封の上、下記の事務局宛お送りください。

*100部以上まとめてご購入の場合や、企業や団体の資材(表3に企業・団体の情報掲載など)としての活用をご検討の場合は、別途ご相談ください。



<NPO法人キャンサーリボンズ「がんと働く」プロジェクト事務局>

〒104-0045東京都中央区築地1-9-4ちとせビル3階

TEL) 03-3546-6101

FAX) 03-5565-4914

E-mail) ribbonz@ellesnet.co.jp

リボンズハウスとは…

がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ、具体的な情報とケア体験を提供する場所です。

医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者さんがより自分らしく少しでも快適な生活を送れるよう、サポートしていきます。また、広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し、支えあいを実践できる場になることを目的としています。各地域や施設の特徴を活かしながら、立地に合ったソフトを展開しています。